

第25回インフォメーション・ミーティング
主な質疑応答

Q：ROE5%達成に向けたシミュレーションにおいて、考慮していないアップサイド要素を教えてください。

A：本シミュレーションは中期経営計画レベルの粒度と比較すると、まだまだ荒い部分があると感じており、貸出や預り資産においても更に収益拡大できる余地はあると考えている。加えて、次世代半導体事業やGX 関連事業が今後どのような形で発展していくかも織り込めていない部分がある。特に GX に関しては事業がこれから立ち上がってくる段階で、次世代半導体分野も周辺事業者の需要が更に出てくるものと思われるが、道内の需要喚起となるよう努力をしていく。

Q：法人分野のコンサルティング営業を振り返って、得られた成果・今後の課題を教えてください。

A：子会社の北海道共創パートナーズ（HKP）を中心に、法人のお客さまに対するコンサルティングは、M&A・事業承継・人材紹介等を確りと行ってきた。道内の金融機関としてトップクラスの実績があると自負しており、上位地銀と比較しても遜色ないと感じている。課題は、道内の大きな問題として人材不足が挙げられる。外国人就労者や人材育成に関するソリューションとして新しいコンサルティングを考えていきたい。今後北海道の成長が見込まれているのに、仕事をこなす人がいないという状況にはしたくない。

Q：今後政策金利の引き上げがあると、収益性が向上し自己資本比率にも更にゆとりが出てくると思われる。リスクアセットの積み上げも順調に推移した場合、更なる配当・還元の余地があると思うがいかがか。

A：現在、RAF 運営導入の議論も行っており、自己資本比率に余力があるかは RAF の中でも検討しなければならない。還元方針は今年度変更したばかりなので当面は現状方針を継続していくが、RAF 運営の中で自己資本比率に余力が出るようならば、方針変更の検討も行わなければならないと考えている。

Q：法人預金の減少について、今後貸出が増加する中で預金も増えていくのか、あるいは北海道外への流出を懸念すべきなのか、リスク認識と対策を教えてください。

A：法人預金の減少は、大口先の特殊要因によるものであり、減少トレンドとは認識していない。一方で、例えば相続預金の道外流出というようなことに対しては対策を講じていかなければならない。なお、北海道の場合、札幌に道内の預金が集まってくる傾向もあり、現状大きな道外流出の懸念はないと感じている。

（次葉）

Q：地域の人口減少等、地銀に共通した経営課題がある中で、北海道は次世代半導体や・GXのようなプラス要素があると感じる。このような資金需要に対して、道内で十分に貸出を伸ばしていけると感じるのか、あるいは道外の貸出比率も高まっていくような想定をしているのか教えてほしい。

A：一義的には北海道の資金需要に対して、確りに対応することが当行の責務である。道外における貸出は運用の目線。道内で確りとしリスクテイクを行い、それでも余力があるならば、道外の貸出や有価証券運用についてリスクリターンを見極めながら行っていく方針である。道内では次世代半導体やGXの他にも、食の重要性の高まりや宇宙産業のような新しい需要も出てきているので、この分野に対してもリスクテイクを行っていきたい。

以 上